

症例検討会

H22年12月

岐大前店

【患者情報】

M・Kさん 93歳 女性

【患者背景】

老人ホーム入所中。乳がん病変が皮膚上に出て潰瘍になっており痛みや悪臭などさまざまな症状が出ている。H病院外科にて治療中に先生よりモーズ軟膏療法を勧められる。

【処方内容】

H21.11.6	リンデロンVG軟膏	5g	
	5-FU軟膏5%協和	10g	
H21.12.4	5-FU軟膏5%協和	20g	
H22.1.4	5-FU軟膏5%協和	20g	
H22.2.1	5-FU軟膏5%協和	20g	
H22.7.23	グリメサゾン軟膏	15g	
H22.8.13	グリメサゾン軟膏	15g	
H22.8.23	オルセノン軟膏	30g	
H22.9.3	グリメサゾン軟膏	15g	☞ここでモーズ軟膏についてお話あり
	亜鉛華軟膏	50g	
H22.9.24	白色ワセリン	50g	☞老人ホームの看護師さんよりモーズ軟膏療法について問い合わせあり
H22.10.1	ヨードコート軟膏	50g	☞家族の方がモーズ軟膏療法に難色を示しヨードコート軟膏処方あり
H22.10.1	ヨードコート軟膏	100g	

【モーズ軟膏】

米国の外科医 F. E. Mohs 氏が考案した軟膏製剤。

塩化亜鉛、亜鉛華デンプン、グリセリンなどで調整。

使用方法は軟膏を皮膚癌などの病変部位に塗布し、組織を固定させ。切除して腫瘍がなくなるまで繰り返す。

モーズ軟膏の薬効・薬理は塩化亜鉛によるもので、亜鉛イオンは水溶液中でたん白質を沈殿させ、組織の収れんや腐食を起こす。また殺菌作用もある。

腫瘍の除去とそれに伴う止血、浸出液の抑制や二次感染による悪臭の軽減に有効である。

【処方例】

塩化亜鉛	50 g
精製水	25m l
亜鉛華デンプン	25 g
グリセリン	20m l

【処方薬剤及び試薬】

塩化亜鉛（試薬）、精製水、亜鉛華デンプン、グリセリン（局方品）

【調整法】

ビーカーに精製水を入れ、徐々に塩化亜鉛 50 g を加え、飽和するまで攪拌する。
次いで、乳鉢にて亜鉛華デンプン 25 g を少しずつ加え均一とした後、グリセリン 20m l を添加しペースト状とする。
塗布の際には粘土の調節のため、適宜グリセリンを加える。
塩化亜鉛はタンパク変性を起こすので、手袋をつけ取扱いに注意する。

【使用法・使用上の注意】

軟膏を厚さ 0.5~2mm に塗布し、ガーゼで覆い、6~24 時間後に固定した組織をメスなどで切除する。
組織を検討し、固定、切除を繰り返す。
軟膏を塗る厚さや塗布時間は腫瘍の大きさ、状態により考慮する。
軟膏は皮膚につくと刺激があるので、腫瘍周囲の健常組織にはワセリンやマニキュア液を塗布して保護する。

※ちなみに院内製剤のため、調剤薬局で出ることはありません。外科的処置が必要なため病院での処置となります。